

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676100193
法人名	医療法人 松城会
事業所名	グループホーム「ゆうゆう」
訪問調査日	平成 19 年 11 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 21 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4676100193
法人名	医療法人 松城会
事業所名	グループホーム「ゆうゆう」
所在地	鹿児島県霧島市隼人町姫城一丁目276番地 (電話)0995-44-6180

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月21日

【情報提供票より】平成19年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 3 月 30 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19人	常勤	14 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 16.

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45000~51000円 (水、光熱費込)		その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	円	
または1日当たり					

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人松城会 隼人温泉病院	米重歯科医院
---------	----------------	--------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日当山駅から天降川を渡り、大通りを左に5分歩くと隼人温泉病院があり、ホームは病院の裏側にある。周辺はコンビニ、スーパー、ドラッグストア、公園、美容院などあり暮らし易い環境である。管理者は入居者と職員と地域というつながりの中で、常に入居者の立場で考え対応されている。職員にもその考え方が浸透してホーム内は大家族が住んでいるかのような明るい雰囲気である。運営推進会議は事前に議題を手渡され、それぞれの意見が出易く家族の方や地域の方の関わりが一層深まることを期待できるホームである。毎月発行の機関紙はホームの活動が良く分かり、外部の人にも好感の持てるユニークな編集内容である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では改善6項目があったがいずれも運営推進会議に於いて議題を持ち込み話し合いが行われている。実践に向けて取り込まれ改善しているものが殆どである。改善課題の根底にある楽しく食事をする考え方に副っているものについては(職員と入居者が同じ食事をする。)ホームとしてのポリシーを持っており変えていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表を各職員に配布し3週間の期間で書き込みをし、管理者がまとめている。一人ひとりが振り返りができ、今後に向けての取り組みの意識付けになっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は6月までは2ヶ月に1回開催してきたが、本年度は現在4回開催している。事業計画、活動内容についての、意見や要望を聞いたり、外部評価の改善課題について討議している。地域、家族、行政の立場での意見をもらい、サービスに反映している。自治会に加入するなど地域との足がかりとなっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応としては、面会時に重点を置いて聞く姿勢でいる。玄関の意見箱、電話の窓口もあるが意見、苦情は出ない。苦情処理委員会があり対処する仕組みがなされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>今年から自治会に加入し、子供会の祭り、十五夜、運動会、清掃、リサイクル活動等参加している。又学生による演奏、希望の里をとうしての踊りやハーモニカ等のボランティア、学生の職場体験の受け入れをしている。毎月町内に"ゆうゆう便り"の回覧する。コンビニやスーパーにも出かけ地域との交流を図っている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念はかかげているが、今までの「家庭的な環境の下」での考え方であり、「地域住民との交流の下で」という考え方での理念には至っていない。		地域密着型サービスという現状に合った理念を検討されることを期待したい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常業務について意識して理念と結びつけて考え、理念に副った業務になっているか具体的な話し合いをしている。話し合いは職員会議や申し送りの中でしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年から自治会に入会して地域の行事(運動会、清掃・リサイクル活動、子供会のお祭り、十五夜)に参加している。希望の里の夏祭りにも参加。踊り、ハーモニカ、小学生の演奏ボランティアを受け入れ、中学生の職場体験の受け入れもしている。町内会に「ゆうゆう便り」の回覧をする等地域との交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員に自己評価表を配布して書き込みをしてもらい職員会議で報告している。職員全員が介護の原点で見つめることが出来、反省点を改善に向けて話し合っている。外部評価についても改善点を運営推進会議の場で話し合い、改善に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をすることによって、自治会に入会できた。地域の行事に参加し、活動ができるようになっている。昨年の外部評価の改善点を一緒に話し合い、改善に活かしている。管理者は会議メンバーに、前もって議題を提案して、意見を持って集まれるように手渡しで案内をして開催している。地域側の知りたい情報等も会を重ねる度意見が出易くなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	霧島市からは毎年実地指導(お金にかかわること、勤務表、介護保険の書類の整備)を受けている。担当者には「ゆうゆう便り」を持って行き、質問事項にも対応してもらっている。市側からの依頼で地域の方のホーム見学、相談の依頼にも対応している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の支払いを窓口支払いにして、必ず家族と面会機会を持つようになっている。面会時において、普段の生活の様子、健康状態、ケアプランに立ち戻っての状況、金銭管理について管理者が話をしている。緊急なことは電話で報告している。遠方の人にも毎月手紙で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会についてのアンケートをしても希望が無く家族会はない。玄関の意見箱にも苦情窓口にも意見が無いに等しい。忘年会が全員集まる機会でもあるが意見は無い。面会時の会話の中では通院介助の要望が多く、対処している。		家族、職員、入居者がうまくかみ合っていくために、もっと家族が気持ちや意見が出せるよう、家族会の活動の工夫を期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は管理者に一任している。管理者は異動を最小限に抑えるため、職員が働きやすい職場を心がけ、トラブルを起こさないよう気をつけている。ユニット間の異動は半年に1回(1~2名)行っている。普段からユニット間の交流があり利用者を与えるダメージには結びつかない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者はオリエンテーションを行い実地指導し、3ヶ月后面談をして問題点を話し合っている。法人で1ヶ月1回の研修があり勤務にはずれた人が参加する。外部研修にも参加し、職員会議で発表し全員に活かしている。		職員は学びたいことの希望を持っている。外部研修に頼るだけでなく内部に於いて、学習したい課題の提案を求め、段階に応じた研修計画を立て育成して欲しい。職員が自信を持って業務ができるよう取り組みを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良伊佐地区グループホーム協議会に加盟して、管理者は役員でもある。事例検討会をしたり、意見交換会に於いて、運営推進会議や監査等の悩み、相談をしている。管理者は近隣のホームとの交流もしている。		近隣のグループホームとの交流が管理者だけでなく、職員も交流されることを望む。交流により新しい発見、反省、納得等、意識の向上につなげて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居を実施しているが申し込みは無い。ホームの入居は家庭、老健からの急な場合が多い。本人が進んで入居することは殆ど無い。入居されてから家族に泊まってもらったり、面会をお願いしたり、擬似電話したり、家族の協力をもらうことで馴染んでもらっている。職員は本人との信頼関係を持てるよう寄り添って、馴染んでもらう努力をされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>昔の歌、田舎の行事、茶道、子育て、料理の味付けなど職員は人生の先輩から教わることが多く共に過ごしながら、支えあって日常生活の中で自然に喜びや感動の場面を持ちながら過ごしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>初めの段階で本人、家族から暮らし方の希望、意向を聞き予備知識を得る。生活の中から本人の意思表示(言葉、表情、態度)から職員が気づいたことを「不在者ノート」に書き込み(重要なことは赤ペンで書く)をして職員全員で意向の把握をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント29項目から優先順位を決めて、利用者、家族、職員の意見を聞き仮のプランを立て1ヶ月実施する。1ヶ月後サービス担当者会議を開催し、本人、家族、関係者(医師や職員)の意見やアイデア、気づきを取り入れ、全員で話し合いプランの検討をして正式に利用者本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランの1ヶ月の実施状況を担当職員が書き込み、評価して、毎月一回点検をしている。変化が生じた場合の見直しは必要に応じて見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院、通院、故郷訪問など付き添って外出支援をしている。地域の認知症の家族の同居相談、困った事の相談に対応して(他のグループホームを案内するなど)アドバイスしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人納得で関連病院が日常医療管理、健康管理をしている。眼科、耳鼻科、皮膚科、歯科の受診等本人、家族の意向に副って、かかりつけ医の受診をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	健康状態に問題が無い時点では話し合いをしていないが、ターミナルに関しては時期をみながら、家族に事前アンケートで意識調査をして、家族の協力がどの程度得られるか確認をし、医師や看護師と具体的な話し合いを段階的に行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護記録の取り扱い等個人情報の保護に関しては徹底している。管理者はトイレ介助、呼び方、言葉かけ、馴れ合い場面に気づいてプライバシーに関してもう一度原点に立ち戻って考えてみたいと思っている。		日々馴れ合いになっての介護について、プライバシー確保という立場からもう一度全員が立ち止まって、言葉や行動の見直しを話し合っ欲しい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝寝、早寝、部屋での食事、帰宅、個別の買い物、美容院、外部の温泉入浴、ウインドショッピング、花を植える、入浴時間、入浴日、散歩等、本人の「して欲しい」希望を優先して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の手伝いをもらいながら調理や盛り付けをしている。職員も一緒にテーブルについて、食べ物についての会話が弾む。調理師さんは旬の食材を取り入れ、一人ひとりの好み、固さ、量を把握している。食べ残しの原因究明までチェックして次に活かすなど細やかな食事の支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	このホームは温泉で、曜日や回数は大まかなものはあるが、それにこだわることなく入浴支援をしている。入浴には介助の人が付くため朝や、夜は対応が出来ないが、本人の希望(入浴時間、順番、時間帯)に副って入浴支援がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事、配膳にかかわる人、接客、お茶いれ、買い物、掃除と出来ることへの出番があり役割が楽しみにつながっている。花植え、ドライブ、花見、猫好きな人のため猫を飼うなど楽しみごと、気晴らしの支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望は少なく、職員による声かけで散歩、買い物、公園、美容院、リハビリ通院、外食、行事への参加を促し支援がなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はかけない。昼間は玄関にも鍵はかけない。外出傾向がある人が入居した場合状況に応じて家族の同意をもらい鍵をかける場合もある。又家族の同意を得て写真、情報をパンフレットにして、交番、自治会、病院、などに配り協力をもらうようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の防火訓練年2回には参加している。管理者はホーム自体での火災訓練(夜間想定)を全職員ができるように6~7月突然な訓練を5~6回繰り返し行い、それぞれの訓練の個人のチェック表を作成、自己評価をさせ火災に自信持って対応できるよう確認させている。自然災害に対しての水、食料等備蓄品について取り組みはなされていない。		管理者は夜間訓練の反省会からの意見に基づき防災マニュアルの作成中であり、現状に役立つマニュアルが出来ることを期待したい。ホームの近くに天降川もあり台風水害に備えての避難経路、避難場所、備蓄、連絡、応援体制を話し合っ対策して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師さんの作成した献立表を年に1回病院の栄養士さんからカロリー、バランスについて検討してもらっている。栄養状態は月1回の体重測定、血液検査年1回、週1回の往診をして変化に気をつけている。水分量1500cc確保するよう配慮している。特別疾患のある人は病院の管理栄養士による食事療法を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間はワンフロアになっていて、畳の部分に炬燵、テレビが置いてある。一人かけのソファを置くなど落ち着ける居場所が確保されている。お風呂は温泉でゆっくりくつろげるようなスペースになっている。フロアの一角に仏壇が置かれお年寄りが落ち着けるよう工夫されている。クリスマスツリー、玄関の菊の花、貼り絵で季節感を感じる工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に花や写真があり間違わない工夫がしてある。ベット、クローゼット、洗面台は備え付けのものであるが、布団、三段ボックス、収納ケース、写真、鏡、時計、額(押し花)、便りのはがき、湯のみとそれぞれ家庭から持ち込まれ、その人らしい落ち着ける部屋になっている。		